



# 沼津市文化財 センター通信

Vol.12

2023年7月発行



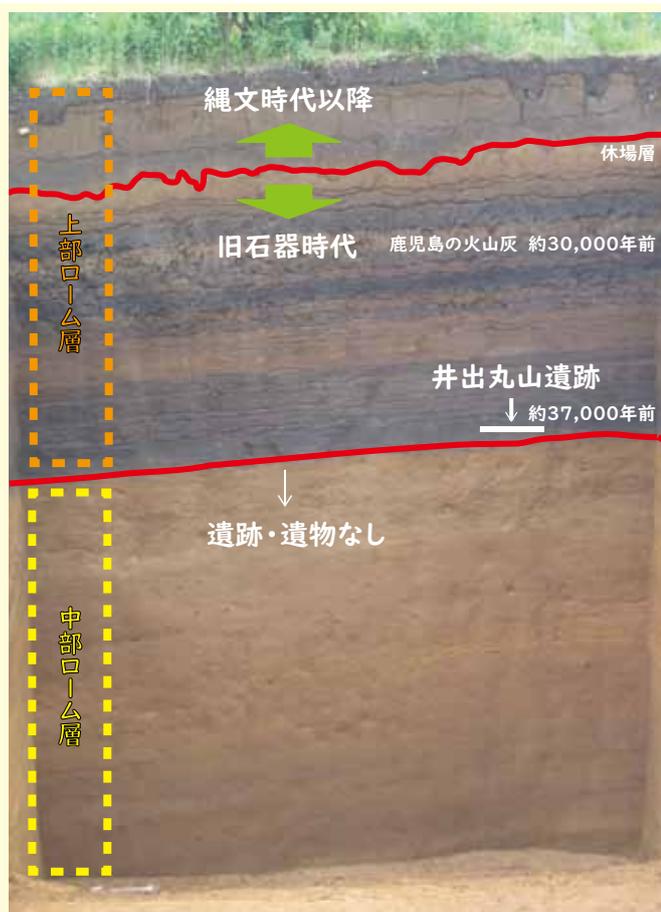
文化財通信  
バックナンバー



沼津市公式Youtube Ch.  
(沼津の歴史紹介)



## 一目でわかる！ 数万年の歴史 ～愛鷹ローム層～



愛鷹山麓の地層 (植出北Ⅱ遺跡)

沼津市の北にそびえる愛鷹山には、多くの遺跡が存在しています。この愛鷹山の遺跡を調査すると、写真のような地層が確認できます。

愛鷹山麓の地層は愛鷹ローム層と呼ばれ、**上部ローム層**、**中部ローム層**、下部ローム層に分けられており、特に**上部ローム層**では黒色と黄土色の土が交互に堆積している様子を確認できます。

この地層は富士山や箱根の火山から噴出した火山灰が積み重なってできており、約3万年前の地層には鹿児島県から飛んで来た火山灰も含まれています。ちなみに休場層と呼ばれる層より上が縄文時代以降で、休場層から下が旧石器時代です。旧石器時代は石器を使い、移動しながら動物を狩る生活でしたが、縄文時代は一つの場所に住んで動物の狩りや植物採集、土器を使って煮炊きをする生活をしていたことが分かっています。

沼津市で見つかったもっとも古い遺跡の**井出丸山遺跡** (井出丸山遺跡についてはVol.2参照) は、**上部ローム層**の一番下の層で確認されており、約3万7千年前の遺跡とみられています。なお、**中部ローム層**から下の層では遺跡は見つかりません。

遺跡の多くは、**上部ローム層**の中でも黒色の部分で見つかりますが、黄土色の部分では、ほとんど遺跡が見つかりません。これは、火山活動が活発な時期であったことから、人が生活しにくい環境となっており、この地域から人が逃げていたからと考えられます。

全国的に見ても愛鷹山のように、地層ごとの遺跡の重なりがはっきり分かり、地層の年代も分かっている場所は少ないです。また、発掘される石器は地層ごとに特色があることから、どの時期にどんな石器を使用していたのかをくわしく知ることができるため、特に愛鷹山で見つかる旧石器時代の遺跡はほかの地域で行われる発掘調査の基準にもなっています。

井出丸山遺跡などの愛鷹山の遺跡から発掘された石器は、文化財センターの展示室でも一部見ることができます。ぜひお越しください。





愛鷹山麓での発掘調査でみつける地層のズレ

愛鷹山麓で発掘調査を行った際に地面に何本もの筋や、地層に段差（ズレ）が見つかることがあります。

右の二つの写真は東名高速道路愛鷹スマートインターチェンジ建設の際に芝荒遺跡で行った発掘調査のもので、上は地層の堆積状況の記録をとるために線を引いている写真です。前のページの写真で見たように愛鷹山麓に堆積する地層は、地形に沿っての傾斜や多少の凹凸はあるものの、大半がきれいに堆積する様子が見られるのが普通です。しかし、この写真では地層に複数の段差（ズレ）が確認できます。下の写真では地面に何本もの筋が見られます。この筋は上の写真で見られる地層のズレにつながります。

この地層のズレや、地面に見られるいくつかの筋は一体何なのでしょう？

これらは地震によってできる地割れの痕跡なのです。この地割れだけでは、地震の発生原因が地殻変動に伴うものか火山噴火に伴うものか、はっきりとはわかりませんが、ズレが見られる地層の一番上の層は地震が発生した時期であることを示しています。

このように愛鷹山麓に見られる地層は、単に土が堆積した状況を示すだけでなく、積み重なっていく際の様々な自然環境の変化についても教えてくれる、とても重要な資料になるのです。



芝荒遺跡で見つかった地層のズレ



地面で確認された何本もの筋



みんなの  
クロームブック  
を持ってきてね

夏休み文化財イベント

日時：8月5日（土）9：00～15：00（最終受付13：15）

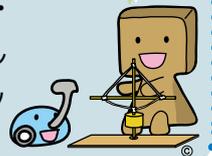
場所：沼津市文化財センター

対象：小学1年生～中学3年生までの児童生徒

参加費：100円（保険代）

内容：土器・勾玉づくり体験（各先着30名・別途有料）、昔の生活体験、考古学のしごと体験、夏休み宿題相談、クロームブックを使った展示室クイズなど

むかしの世界へ  
タイムスリップ



案内図



沼津市文化財センター

展示室見学 平日9時00分から16時30分  
（土・日曜日、祝日、年末年始はお休み）

見学無料

〒410-0106 静岡県沼津市志下530

TEL 055-935-5010 / FAX 055-933-1270

沼津市教育委員会文化振興課 文化財企画係・文化財調査係

E-mail cul-bunkazai@city.numazu.lg.jp

